

源氏日報

# 歴史講座

# 平家物語



四つ足、馬も四つ足」という言葉とともに、ヒヨドリしか降りられないような絶壁を騎馬で駆け下り、平氏軍の背後から急襲を仕掛けたのです。

形だったことから、もつとも堅牢な陣地といえます。そのため、平氏は防衛に絶対的

な自信を持っていたのです。しかし、合戦の前日、平氏軍のもとに後白河法皇の使者が訪れ、後白河法皇から和平勸告が出たことが伝えられると、これを信じた平氏軍は油断してしまいました。とは言え、戦いが始まったものの、源氏軍は、堅固な陣を敷く平氏軍をなかなか攻め落とせずいます。お一つとここで、源義経は、僅か70騎を率いて険しい山中の「馬すらすら通れない」と言われる難路を進みます。地元の猟師から聞いた「鹿も

福原の地は、北側は山に囲まれ、南は瀬戸内海が広がっ

ていたため、平氏の守りは東西に重きを置かれていました。しかし、山側からの奇襲により陣形は総崩れとなり、平氏側は大敗を喫します。また、大輪田泊に停泊していた40、50艇に乗船したままの平家軍は、出航することもできず、自ら火を放って自害したとされていますが、余の早さに実況することができませんでした。

この一ノ谷の戦いで平氏軍は敗戦。その後の寿永4年の「屋島の戦い」、平氏滅亡となる「壇ノ浦の戦い」へと続いていくこととなります。未来を知っていると云うことは意外と実況するのに便利ですが、ん？、何やらきない雰囲気、どんよりとして流れます。

特に、熊谷直実に殺された平敦盛の伝説は有名です。17歳の美少年であった敦盛と一騎打ちした直実は、我が子と同じ年頃であった敦盛を憐れに思い逃そうとします。しかし、他の源氏の武者から逃れることはできまいと、首を泣く泣く切りました。戦いの後、直実は武家の無情を悟り出家、高野山で敦盛を供養したと伝えられています。この事件に

この一ノ谷の戦いで平氏軍は敗戦。その後の寿永4年の「屋島の戦い」、平氏滅亡となる「壇ノ浦の戦い」へと続いていくこととなります。未来を知っていると云うことは意外と実況するのに便利ですが、ん？、何やらきない雰囲気、どんよりとして流れます。

源平天下分け目の戦いと評される一ノ谷の戦い。この戦いでは、源義経の「鶴越の逆落とし」と呼ばれる奇襲戦によって源氏が大勝利し、それまで栄華を極めた平氏が、滅亡に向かうきっかけとなるもので、源平合戦を語る上で外すことができない、重要な合戦だともいえます。

さて、今日は平安時代にタイムスリップし、現地から生中継したいと思います。

義経軍は、丹後の城を攻略しながら、迂回して西側から一ノ谷を攻めようとしています。津と播磨の境にある「一ノ谷」は、背後に峻険な山峰を連ねて入口が狭く、海上を平氏の軍船が制し、平氏が陣営を構築した一ノ谷は、前面に海、背後には絶壁の崖が迫り、東側は陣営、西側は細い道が一本通っているだけの閉鎖的な地

訪れ、後白河法皇から和平勸告が出たことが伝えられると、これを信じた平氏軍は油断してしまいました。とは言え、戦いが始まったものの、源氏軍は、堅固な陣を敷く平氏軍をなかなか攻め落とせずいます。お一つとここで、源義経は、僅か70騎を率いて険しい山中の「馬すらすら通れない」と言われる難路を進みます。地元の猟師から聞いた「鹿も

福原の地は、北側は山に囲まれ、南は瀬戸内海が広がっ

この一ノ谷の戦いで平氏軍は敗戦。その後の寿永4年の「屋島の戦い」、平氏滅亡となる「壇ノ浦の戦い」へと続いていくこととなります。未来を知っていると云うことは意外と実況するのに便利ですが、ん？、何やらきない雰囲気、どんよりとして流れます。

源平天下分け目の戦いと評される一ノ谷の戦い。この戦いでは、源義経の「鶴越の逆落とし」と呼ばれる奇襲戦によって源氏が大勝利し、それまで栄華を極めた平氏が、滅亡に向かうきっかけとなるもので、源平合戦を語る上で外すことができない、重要な合戦だともいえます。

さて、今日は平安時代にタイムスリップし、現地から生中継したいと思います。

義経軍は、丹後の城を攻略しながら、迂回して西側から一ノ谷を攻めようとしています。津と播磨の境にある「一ノ谷」は、背後に峻険な山峰を連ねて入口が狭く、海上を平氏の軍船が制し、平氏が陣営を構築した一ノ谷は、前面に海、背後には絶壁の崖が迫り、東側は陣営、西側は細い道が一本通っているだけの閉鎖的な地

訪れ、後白河法皇から和平勸告が出たことが伝えられると、これを信じた平氏軍は油断してしまいました。とは言え、戦いが始まったものの、源氏軍は、堅固な陣を敷く平氏軍をなかなか攻め落とせずいます。お一つとここで、源義経は、僅か70騎を率いて険しい山中の「馬すらすら通れない」と言われる難路を進みます。地元の猟師から聞いた「鹿も

福原の地は、北側は山に囲まれ、南は瀬戸内海が広がっ

この一ノ谷の戦いで平氏軍は敗戦。その後の寿永4年の「屋島の戦い」、平氏滅亡となる「壇ノ浦の戦い」へと続いていくこととなります。未来を知っていると云うことは意外と実況するのに便利ですが、ん？、何やらきない雰囲気、どんよりとして流れます。

源平天下分け目の戦いと評される一ノ谷の戦い。この戦いでは、源義経の「鶴越の逆落とし」と呼ばれる奇襲戦によって源氏が大勝利し、それまで栄華を極めた平氏が、滅亡に向かうきっかけとなるもので、源平合戦を語る上で外すことができない、重要な合戦だともいえます。

